

## 「天気」原稿執筆要領

### 1. 用紙とレイアウト

- ① ワープロの場合：A4白紙（縦）に横書きで1ページに24字×44行で印刷する。マージンは、左右50mm以上、上下30mm以上とし、ページ番号をつける。
- ② 手書きの場合：横書き原稿用紙（400字あるいは500字詰）を使用する。なお英文要旨と英文による図表の説明文をつける場合、これらについては手書きは不可とする。

### 2. 原稿の長さ

原稿の長さは原則として、図表も含めた印刷ページ（印刷1ページは約2000字）で以下の通りとする。

- ・論文：12ページ以内
- ・短報：6ページ以内
- ・解説：20ページ以内
- ・シンポジウム，研究会報告，最近の学術動向，天気の教室，気象談話室，海外だより，情報の広場，気象業務の窓：6ページ以内
- ・調査ノート：4ページ以内
- ・新用語解説，質疑応答，本だな，会員の広場：2ページ以内
- ・情報File：1ページ以内

### 3. 構成

- ① 第1表に示す構成とする。
- ② 論文などの和文要旨は400字以内とする。論文・短報・解説に英文要旨をつける場合、300語以内とする。
- ③ 節番号は「3.」，「3.1」，「3.1.1」とする。文中で箇条書きが必要な場合には、①②などとする。
- ④ 付録中の節番号は「A.1」「A.1.1」のようにする。付録が2つ以上ある場合は「付録A」「付録B」…

第1表 各原稿の様式。

○：必要，※：記載事項があれば必要，△：任意，  
－：なし

	論文	短報	解説	その他
和文表題	○	○	○	○
著者名，所属機関名	○	○	○	○
責任著者の電子メールアドレス	△	△	△	△
内容分類番号，キーワード	○	○	○	○
要旨	○	△	－	－
英文の著者名	○	○	○	○
英文表題	○	○	○	△
英文の所属機関名・住所	○	○	○	－
英文要旨	△	△	△	－
本文	○	○	○	○
謝辞	※	※	※	※
略語一覧	※	※	※	※
参考文献	※	※	※	※
付録	※	※	※	※
図表の説明文	※	※	※	※

\* 本だな，質疑応答，その他ごく短い記事については、より簡易な形式も可。

\*\*本だな，および情報File等の連絡記事には「内容分類番号」「キーワード」は不要。

として区別する。

- ⑤ 脚注はなるべく用いない。

### 4. 表記

#### 4.1 著者名・所属機関名の表記

所属は郵便物が確実に届く程度のもの（大学の場合は学部程度）を書く。役職名はつけない。著者と所属の対応関係を、\*や\*\*を用いて表記する。具体的な書き方は最近号の例を参照のこと。

#### 4.2 内容分類番号，キーワード

内容分類番号は、別表（73ページ）の中から該当す

るもの1件以上を選び、その番号を記す。キーワードは記事の内容に相応しい任意の語を1つ以上、カッコに入れて記載する。

記載例：104；105；7（集中豪雨；二つ玉低気圧）

#### 4.3 文中の表記

「天気」の読者にはいろいろな分野の人がいることを考え、特定分野や業種内でのみ通用する言葉の使用は控えるものとし、止むを得ず使う場合は説明をつけることを原則とする。ただし、学会誌としての簡潔さを損なわないよう適宜配慮する。

以下に指針を示すが、原稿の性格などによっては柔軟に対応する。

- ① 気象用語は気象学会「オンライン気象学用語集」([http://www.soc.nii.ac.jp/msj/member\\_pages/yogo\\_temp/](http://www.soc.nii.ac.jp/msj/member_pages/yogo_temp/)、現在作成中)や「文部省学術用語集 気象学編」を参考とする。外国語を使う場合は、日本語としての用例が少ないものを除き、カナ書きにする(ハリケーン、フェーンなど)。外国語のカナ表記の指針は特に定めないが、当該記事の中で表記がばらつかないようにする。
- ② 外国の人名・地名は、社会的知名度の高いものはカナ書きとする(ニュートン、ロンドン、ロッキー山脈など)。それ以外は状況に応じて原語を併記し、あるいは原語表記にすることができる。
- ③ 数字は算用数字を使うが、「数百」「十数回」「三角形」のような熟語的なものは例外とする。年号は原則として西暦を用いる。時刻は24時間制とし、必要に応じて日本時間(JST)と世界時(UTC)の区別を明記する。経緯度は「北緯30度」「30°N」のどちらでも良い。
- ④ 単位はSI単位系による(「オンライン気象学用語集」の別表参照)。止むを得ず他の単位を使う場合はSI系への換算式を示す。
- ⑤ 国内の機関名は省略せず完全形を記す。ただし、簡潔さを要する報告記事の場合などは、誤解を生じない範囲で略称を使用できる(「東大海洋研」など)。
- ⑥ 略語を使う場合には、初出時に完全形を書くか、本文の末尾に略語表をつける。機関名やプロジェクト名の略称についても同様である。
- ⑦ 句読点は誌上では「，」「。」と印刷されるが、原稿は「、」「。」でもよい。

#### 4.4 数式

数式は上下に1行ずつあけて明瞭に書き、引用する

ときのために右端に(1)、(39)などのように原稿全体にわたっての通し番号をつける。付録中の式は(A1)のように、本文とは別の通し番号をつける。

## 5. 参考文献

### 5.1 文中での引用方法

- ① 著者が2人以下の場合には全員の姓を書き、発表年を記す。
- ② 著者が3人以上の場合には第1著者に「ほか」(和文論文)または「*et al.*」(欧文論文)をつけ、発表年を記す。
- ③ これにより、同じ表記になる文献が複数ある場合には、発表年にアルファベットをつけ、岡田(1972a)、岡田(1972b)のようにして区別する。

・記載例：

…解析の結果(松野 1970；Klemp *et al.* 1981a, b；二宮・秋山 1991)は…。…は浅井ほか(1981a)やKraus and Businger(1994)が調べている。

### 5.2 参考文献欄の記載順

和文・欧文の区別なく第1著者名のアルファベット順に並べる。同じ第1著者の文献が複数ある場合には、

- ① 著者が1人のものを年代順に並べ、
- ② 次に著者が2人のものを第2著者のアルファベット順に並べ、
- ③ 次に著者が3人以上のものを、著者数に関係なく年代順に並べる。

### 5.3 各文献の記載方法

- ① 雑誌中の文献：著者・年・表題・雑誌名・巻又は号番号・ページまたはdoiの順とする。
  - a. 著者：原則として著者全員を下記の記載例の様式で書く。
  - b. 表題：欧文文献の場合、冒頭と固有名詞を除いて小文字で書く。
  - c. 雑誌名：和文誌名は原則として略記しない。欧文誌の略記法については最近の本誌参照。
  - d. 巻・号とページ：
    - ・巻全体の通しページがある雑誌は、巻番号(ゴシック)と通しページを書く。
    - ・巻全体の通しページがない雑誌は、5(12)のように巻番号(ゴシック)に続けて、号番号を括弧で示し、号毎のページを記す。
    - ・号番号だけで巻番号のない雑誌は、括弧でくくった号番号とページを示す(以下の例参照)。

・記載例：

Klemp, J. B., R. B. Wilhelmson and P. S. Ray, 1981: Observed and numerically simulated structure of a mature supercell thunderstorm. *J. Atmos. Sci.*, **38**, 1558-1580.

松野太郎, 1970: 重力波と地衡風運動. *天気*, **17**, 349-352.

二宮洸三, 秋山孝子, 1991: 梅雨前線帯の cloud cluster. *気象研究ノート*, (172), 135-209.

・論文・短報以外の記事では、著者数がおおむね10人以上の文献を下記のように略記できる。

Onogi, K. *et al.*, 2007: The JRA-25 Reanalysis. *J. Meteor. Soc. Japan*, **85**, 369-432.

余田成男ほか, 2008: 日本における顕著現象の予測可能性研究. *天気*, **55**, 117-126.

② 単行本の引用：著者・発行年・書名・出版社・引用ページあるいは総ページの順とする。書名中の主要単語は先頭を大文字にする。

・記載例：

浅井富雄, 武田喬男, 木村龍治, 1981: 雲や降水を伴う大気. *大気科学講座 2*, 東京大学出版会, 249pp.

Kraus, E. B. and J. A. Businger, 1994: *Atmosphere-Ocean Interaction* (2nd ed.). Oxford Univ. Press, 362pp.

③ 共同執筆書の一部引用：著者・発行年・表題・編集者名・書名・出版社・引用ページの順とする。表題・書名の書き方は上記①②と同様にする。

・記載例：

木田秀次, 1998: 地球を巡る大気の流れ. *新教養の気象学*, 日本気象学会編, 朝倉書店, 61-72.

Defant, F., 1951: Local winds. *Compendium of Meteorology* (T.F. Malone, ed.), Amer. Meteor. Soc., 655-672.

④ Web ページの引用：著者・年・表題またはサイト

名・URL, 最終閲覧日。

・記載例：

気象庁, 2007: 気象観測統計の解説. <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/kaisetu/index.html> (2009.10.29閲覧)。

なお、Web ページの内容を引用せずその存在だけを提示する場合には、本文中に直接 URL を記載してもよい（脚注の使用は避ける）。

## 6. 図表

① 図は電子ファイルまたは A4判用紙に描き、図番号をつける。

② 線の太さや文字の大きさは、印刷時に縮小されても見づらくないよう十分注意する。また、カラーの図を白黒印刷する場合、トーンが明確に判別できるよう注意する。これらは、投稿前にプリントアウトして確認することが望ましい。

③ 図の掲載時の横幅は、2 段組の片段の場合 67mm, 1.5 段の場合 106mm, 2 段にわたる場合は 145mm の 3 通りである。図毎に印刷時の大きさを指定する。

④ 図表の番号は「第 1 図」「第 2 表」などとする。1 つの番号の図表に何種類もの図表が含まれている場合は a), b), …として区別する。このとき、本文中では「第 1 図 a によると」のように引用する。付録中の図表の番号は「第 A1 図」などとする。

⑤ 引用する図表が出てくる本文の該当箇所の右横欄外に「第 1 図挿入」などと朱書する。

⑥ 図表の説明文はまとめて本文の末尾に付ける。論文・短報・解説については、図表の説明文を英文とすることができる。この場合、図表の番号は Fig. 1, Table 2 などとするが、本文中での引用時には第 1 図, 第 2 表などとし、図表の説明を本文中でも行って、本文を読むだけで意味が理解できるようにする。